

令和元年度

# 戸田市教育研究集録

## 戸田市教育フェスティバル開催

WEB会議システムによる遠隔研修

令和2年1月8日(水)、戸田市役所にて「戸田市教育フェスティバル」を開催しました。今年度は、「これからの時代に向けた個に応じた学びの在り方」を共通テーマに、認定NPO法人カタリバ パートナー 今村 亮 様と、デジタルハリウッド大学大学院 教授 佐藤 昌宏 様をお招きし、それぞれ異なる領域の第一線で御活躍のお二方に御講演いただきました。

共通テーマ  
講演

### これからの時代に向けた個に応じた学びの在り方

#### ◆講演 1



認定NPO法人カタリバ  
パートナー  
今村 亮 氏

#### ●これからの時代の課題

日本の10代は、自己肯定感や社会参画の意識の低さ、意欲や創造性を育むきっかけをつかめない「きっかけ格差」の広がりなど様々な課題がある。さらに、Society5.0の到来に向け、これからの教育は、「答えを与えられる教育」から「学ぶ目的を見つける『探究』」にシフトしていく必要がある。

#### ●個に応じた学びの在り方

PBLを一つの方法として、自らテーマを設定することを基礎とした「マイプロジェクト」という手法を探究学習に導入している。マイプロジェクトは「Will (興味・関心・好きなこと)」「Need (必要性・課題)」「Can (できること)」の3つの輪が重なった時、動き出す。探究心を引き出すためには、子供達の「何か気になる」を尊重しながら進めることが大切である。自分のWill-Can-Needをとにかく書き出してみることも有効である。

個に応じた学びには、これまで以上にパワーが必要であり、活かせる外部の力を積極的に取り入れていく必要がある。そのためにも、やめる勇気、省力化する勇気も必要で、テクノロジーの活用、そのヒントがある。

#### ◆講演 2



デジタルハリウッド大学大学院  
教授  
佐藤 昌宏 氏

#### ●教育は本気で変わり始めた。

学びのSTEAM化、学びの個別最適化など取組が進んでいる。学生は、テクノロジーを活用して、自分で新しい学びをつくり、イノベーションを起こしている。デジタルテクノロジーが社会インフラとなったことから、「教育」という制度を学習者中心に再考する必要があると考える。

#### ●学びの個別最適化

学習者はインターネットやテクノロジーによって自分の興味・関心を深化するシーンが増えてきている。デジタルテクノロジーを使うことによって、学習者の学びの情報が可視化できる。ログが残ることで検証可能、再現可能となり、数字を元にしながら教育を科学し議論することが可能になる。スタディログが蓄積され分析可能な状態になり、可視化されることで ①学びの振り返りができる ②学習者にとって最適な学習環境が獲得できる ③教育・指導方法の改善につながる ④個別の学習計画が立てられる などのメリットがある。今言われている一人一台の本質的な意味は、個別最適化の始まりを意味している。

学習の個別最適化は進むが、一斉授業と個別学習の在り方は、これからも試行錯誤していかなくてはならない。二項対立ではなく、掛け算の発想で学習者の成長によりよい方法を考えていく必要がある。教育改革は、一朝一夕にはいかない。10年後のあるべき姿を改めて考えながら、進めていかなければならない。

## 戸田市教育委員会



▼戸田市教育委員会公式 Facebook  
<https://www.facebook.com/todaedu>